
三つの願いと世界の事情

老松 こも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三つの願いと世界の事情

【コード】

NO107Y

【作者名】

老松 こも

【あらすじ】

主人公は一つの世界の流れからはじかれて、神に他の世界に転生されることになる。他の転生者の願いを参考に、三つの願いをかなえてもらうのだが……。

転生して好き勝手生きようとする転生者たちが、現実の壁にぶち当たって、それでも生きていこうとする根性の物語……になればいいのですが、キーワードですでに救いがなさそう。

プロローグ（前書き）

この小説はインターネット投稿作品としては処女作であり、文章構成を試していく実験的な作品になります。よって更新は不定期になります。ですが、それでもよいという方は読んで頂けると嬉しいです。

感想、意見、ありましたらぜひお寄せください。

また、この作品には残酷な表現、気分を悪くさせるような表現が含まれますので、作品を読んで気分を悪くされた方は、すぐに読むのを止め、他の作家方の作品を読み、気分転換をお願いします。

プロローグ

気がつく、私は椅子に座っていた。

何が何だかさっぱり分からず混乱しそうになる頭を整理させようと深呼吸を繰り返す。

いや、脳に酸素が送られると、さっき以上に現状の異常さが理解できて嫌になった。しかし冷静になれたので結果オーライ、だ。

周りを見渡す限り白い。空も白く、床も白く、椅子も白い。影はあるのでどこかに光源があるのだと思われるが、全てが白いため判別がつかない。とりあえず光源があるだろう方向に視線を向けると、なんか居た。

神。全知全能にして全ての創造主たる枠組み自身。世界そのものであり、その構成物全ての総称。神とは単一であり単体ではなく、全体であり全個体ではない。

3

神様らしい。

よくは分からないが、理解してしまえる何かがそこにはあり、私はそれが神であることを理解した。

神の姿を簡単に現すなら、光だ。かろうじて人の形をしていることが分かるが、輪郭というか全体が光り輝いているため詳細な顔や姿形はよく分からない。というか、この空間の光源が神って……、シールド。豆電球の神様か。

気を取り直して、神様なら現状がどうなっているのか分かるかも

しれない。というか、先ほど理解した神様の本質を信じるなら、知っていないければおかしいのだが。

死。全ての事柄は必ず終わりを迎え、その流れに逆らうことは出来ない。それぞれの事柄において限界が存在し、その限界を超えること、限界に満たないことは不可能である。しかし例外が存在し、その例外によって流れを失ったものを別の流れに加えることを行う。それが転生である。流れは世界に一つしかなく、一度流れから外れたものは元の流れに戻ることが出来ないため、転生によって人は世界の境界を超えることになる。

転生ね。つまり私は現在、転生の旅の日を迎えているわけだ。ここは言ってみれば駅のホームであり、神様は駅員で、私は乗客といったところだろう。

で、あれば、だ。私は今から転生するということになる。しかも、例外によってもとの世界から零れ落ち、別の世界に転生するのだ。世界から外れたといえば物語のようで格好いいが、要は死んだということだ。28年の人生か、早いものだ。

転生を行うとき、世界を渡る手当てとして、三つだけ欲しいものを得られる。三つの前提は揺るがず、神の加護であり、これは他の流れにおいても効力を発揮する。

三つの願い事。今までに転生した人が願ったことが知りたい。人を真似るわけではないが、参考にしたい。

いままで、こうやって疑問を持てば神はすぐに答えてくれていた。少し方向は違うものの、教えてくれそうな気がしていた。

今までの転生者の数は、14名であり、過ぎし日々にも、来るべき日にも、転生者はこの部屋を訪れた。全てのもがそれぞれ違う力を欲しがり、その内訳はこうである。

? 金髪、オッドアイ、魅了。

? 完全催眠能力、完全記憶能力、全能。

? 魔眼、身体能力上昇、瞬間復元能力。

? 全知、全能、不老。

? 不老、不死、容姿端麗。

? 金髪、魔力百倍、願望増加。

? 巨大ロボット、操縦技術、整備技術。

? 吸血鬼、成長五倍、成長限界突破。

? 反応速度十倍、縮地、持久力十倍。

? 願望増加、容姿端麗、魅了。

? 全能力百倍、魔道具創造、肉体再生能力。

? 状態異常無効、魔法効果無効、全能力百倍。

? 主人公補正、全能力百倍、カリスマ。

? 親友、平穩、幸運。

これらが全て叶えられて、転生したらしい。転生先が明示されていないのは、全て同じ転生先だからだろうか。もしかすると、後半の?や?は前半の転生者に対抗しようと思ったのかもしれない。

しかし、よく分からないのは?と?だ。願望増加とは「願い事を増やして欲しい」だと思うのだが、?は最後に回したからとかかも知れないが、?は最初に願っている。最初の願いで願い事は増えたはずなのに、何故三つ目で終了しているのだろうか。まさか「三つの前提は揺るがず」は、三つという数も揺るがないということなのだろうか。

前の失敗を知ってか、後の三人は全能力百倍が基本になっている。一番異色を放っているのは、もちろん?だ。まるで他の人とは違う完成で願い事を選んでいる。争いごとが苦手なのか、ずいぶんと平穩そうな願いだ。こんな願いでも叶えてくれるということとは、この神様はずいぶんと良心的なのかもしれない。

とはいえ、私も慎重に選ばなければいけない。他の人と願いが被っても問題はないようだし、どんな願いも叶うのならばもつと腹黒いやり方だっただろうが、ここは自重しておこうと思う。もしも次に転生する人がいるとすれば、そのとき真っ先に私を潰すような願い

事を言うだろうから。

よし、決めた。

一つ目の願いはすでに決めてある。

「女性であることを望みます」

よからう。

頭に響くというより、直接理解させられるような感覚。これで一つ目の願いを消費してしまった。

女性であることを望んだのは単純な興味で、どうせ生まれ変わるのなら異性に生まれ変わりたいと思っていたからだ。

二つ目の願いも決めてある。

「魂の非消滅を望みます」

よからう。

これは、私が考える不死の概念で、要は「幽霊になって気ままな生活を送ろう」ということである。もしも死んでも、神様の加護によって魂だけは存在し続ける。他の転生者の波乱に満ちた人生を観察するのも良さそうである。

三つ目の願いだが、これまでにないが、少し平凡な願いにしようと思う。

「支配階級に生まれさせてください」

よからう。

支配階級に生まれる。それは貴族に生まれるということだと思っている。貴族に生まれれば衣食住に苦労はないだろうし、独自の情報網で他の転生者の情報を集めることが出来るかもしれない。将来は幽霊生活を送ることも念頭に入れた、どうでもいい願い事だ。

ともあれ、これで三つ全ての願い事が決まった。後は転生を待つのみである。さて、転生先はどんな世界なのだろうか。平和な世界だと良いが、適度に暗い部分がある世界だともっと良い。

せっかくの二度目の人生、楽しくなれば良い。

我が世界の子らよ、汝らに祝福のあらんことを。

プロローグ（後書き）

空白の開け方で神の言葉？ を区別してみました。

読み辛い、別の表現がいいという方がいらっしやいましたら、ご意見をお願いします。

主人公の名前、転生先については次で分かります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0107y/>

三つの願いと世界の事情

2011年10月29日03時13分発行